

南笠東学区人推協だより

絆

きずな

第21号

2021年3月15日

南笠東学区
人権教育推進協議会

令和3年2月20日(土) 「実践発表のつどい」



新型コロナウイルス差別と人権

人権教育推進協議会 会長 山本 敬二

新型コロナウイルス感染者数が世界で1億1400万人を超えました(3/4現在)。日本の感染者数も43万人超。医療崩壊が起こり、医療従事者やその家族に対してのいじめや生活の維持に必要なサービスの提供拒否、保育園への登園拒否などの差別事例が全国で多数発生しています。またインターネットやSNSで実名や写真が拡散され、感染者や関係者の方が偏見・差別に苦しんだ事例が相次いで発生していることは誠に遺憾なことであります。

『そこで皆様、想像してみてください』

新型コロナウイルスに対する差別やいじめが横行する社会の中で、あなたは感染してしまいました。そのとき素直に「感染しました」って言えますか？

『恐れるべきはウイルスであり、人ではありません！！』

あらためて声を大にして言いますと、差別やいじめをなくす第一歩は一人一人が正しい知識を持ち、互いに思いやることです。人権啓発の原点は、自分自身を見つめなおすことからではないでしょうか。

遅くはありません。今からでも正しい知識を持ち見つめなおしましょう！



正しい理解と安心して暮らせる地域社会を！ ～シトラスリボンプロジェクトの取組を通して～

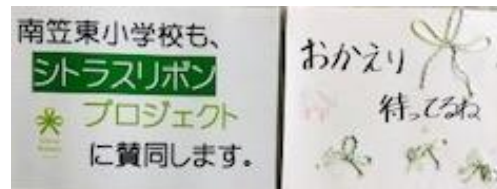
南笠東小学校 校長 西村 洋

相手の気持ちやその方が置かれている状況を考えずに、対象となる人がどこのだれかを詮索したり、知り得た情報を拡散したりすることで、偏見や差別が生まれるケースがよくあります。

新型コロナウイルスに感染された方に対しても、実際にこのような状況が起こっていないでしょうか？小学校では、もし周りの友達が感染した場合でも、その人のつらさやしんどさを理解し、友達が学校に戻ってきた時に「おかえり」「ただいま」が言い合えるようにしようとする「シトラスリボンプロジェクト」を進めています。

学校・家庭・地域の3つの輪が協働して、コロナウイルス感染に対しての正しい理解とみんなが安心して暮らせる地域社会をつくりましょう。

ご理解とご協力よろしくお願いします。



玉川中学校の取り組みについて

玉川中学校 教諭 大西 知行

6月17日(木)に玉川中学校で「情報モラル学習会」を実施しました。対象は PTA 会員および生徒の皆さんです。講師は NIT 情報技術推進ネットワーク・篠原嘉一さん、演題は『将来に不安を残さない SNS の注意点～ネットトラブルから身を守るために～』でした。参加者から、次の感想がありました。「知っているつもりでしたが、改めて知ったことがたくさんありました。私たち、親世代とは違い、小さいころからネット・SNS に触れている子どもたちがトラブルに合わないように知った上で利用してほしいのと、やはり対面しお互い会って話す楽しさを分かって、上手く SNS などを使ってほしいと思います。」



各教室に分かれての学習会の様子



令和2年度 管外研修報告

南笠東学区人権教育推進協議会

副会長 浅井 利治

令和2年度の管外研修は、コロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、令和2年10月1日(木)に開催しました。例年ですと町内会人権委員の方など多くの方に参加いた

だいておりましたが、参加者を人推協役員やモデル団体の方に絞り9名で、東近江市の大萩茗荷村と冲原神社・八日市飛行場掩体壕での、現地研修に出かけました。

最初の研修先となった大萩茗荷村では、茗荷村を紹介したDVDを視聴した後、代表の小泉一郎様から、茗荷村の設立の経過や現在の取り組みについてお話をいただきました。障がい者とそうでない人も、老人も若い人も共に働き、豊かな自然の中で自立循環型社会を目指して活動されていることを学びました。

午後からは、東近江市観光ボランティアガイドさんの案内で、冲原神社の歴史と陸軍八日市飛行場掩体壕の戦争遺構について学習しました。冲原神社の沖は、サンズイの「沖」ではなく、飛行隊兵士を送るためニスイヘンの「沖」(空の果ての意味)が使われており、現在は戦没者の慰霊と戦争の悲惨さを伝えていくため地元の方が活動されているとのことでした。また、掩体壕については第二次大戦末期に軍用機の防空避難施設として建設され、その遺構が現存しているとの説明をいただきました。今回の研修では、障がい者の方の生活と掩体壕などの貴重な戦争遺構について、現地研修を通じ多くのことを学ぶ研修会となりました。



八日市飛行場掩体壕前で
ボランティアガイドのお二人と

令和2年度 南笠東人権教育推進協議会の町内懇談会モデル町よりの取組報告

令和2年度モデル町 笠山町町内会 会長 棚橋 幸男

令和2年11月14日(土)19時から、笠山町町内会の町内学習懇談会を笠山会館で、22名が参加して開催しました。今年度、学区内のモデル町内会に選ばれましたが、草津市同推協の第1・2講座をはじめ、学区人推協の第3・4講座もコロナ禍で中止になり、事前学習ができない状況となってしまいました。町内学習懇談会は、町内会の年度事業で当初より計画していましたが、コロナ禍が続く中どのように進めるか、役員会でいろいろ検討し、3密の回避、マスクやアルコール消毒の徹底、室内換気等の実施など、コロナ対応を十分とり、参加人数も限定し行うことが決まりました。

事前学習会の各講座が中止になったことから、進め方を草津市人権センターの明田先生に相談し、2回の指導をいただき当日に臨みました。懇談会では、最初に、アコンシャス・バイヤス(無意識の偏見)について気づくことのお話を聞き(見方によって変わったり、反対の意味になることもあり、違いを探すのではなく、共通点を探すことでつながっていく)、そしてリラックス(アイスブレーキング)手法でみんなが考えを柔軟にできる時間を持った後、本題のDVD「コロナ禍でも大切にしたい“つながり”」を約20分視聴し、話し合いによる懇談会を行いました。

今回の町内学習懇談会では、ネットによる差別拡散の恐怖や相手に対して共通点を探り、思いやりを持った心で相手の気持ちを考え、行動に繋がれることの大切さや、差別は知らないことが大きな要因にあるとも言われるので、偏見を伴う行動を正すことが大事であることを学びました。



卓球で楽しく明るい生活を

令和2年度モデル団体 まちづくりセンター自主教室代表

卓球サークル「コスモス」人権担当 河村 良一

毎週土曜日の午前中、南笠東まちづくりセンター大ホールでコスモスメンバーの出会いがスタートします。素敵な仲間が集まり卓球論議はもちろんコロナ禍の生活様式・ワクチンの AI による接種時期・オリンピックのジェンダー問題等々、会話が尽きることはありません。何といっても卓球をすることで、笑顔を絶やさず楽しく明るく、生きている喜びを実感しています。

人権学習も定期的に行い、最近では①障がい者への理解②いじめ問題③男女平等④ハラスメントについて学習し徐々にではあますが理解を深めています。

「コスモス」の良い所は、出会いを大切にしお互い笑顔で接し、卓球を通じて楽しく明るい毎日を過ごすことにあります。笑顔で人権問題を吹き飛ばしスマッシュを。



卓球サークル「コスモス」の皆さん



人権センターのとりくみについて

草津市立人権センター 明田 孝之

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、草津市でも人権啓発・教育に関わる行事や講座の多くを中止しました。しかしながら、「コロナ差別」と言われるような人権侵害事案が発生しており、「このような時だからこそ『人権に関する学び』を絶やしてはいけない」と何ができるか考えた一年でした。センター内で意見を交わしながら、新型コロナウイルス感染症拡大によって生まれた新たな「差別」や「排除」について啓発する学習リーフレットや、めざめ第43集の内容に沿った町内学習懇談会用のDVDの2種類の啓発資料を作成しました。初の試みではあったもののご好評いただき、学習リーフレットは市内で1万部以上、DVDは町懇を実施した市内の町内会の約3割で活用していただけました。

人権問題は誰もが当事者です。人権意識の向上を図り、当事者意識を高めていくためにも、次年度以降も工夫し、学ぶ機会を持ち続けていきたいと考えています。



人権作文 優秀作品

例年2月に開催していた「実践発表のつどい」で作文を朗読していただきましたが、今年度はコロナ感染症拡大防止の観点から「実践発表のつどい」での朗読を中止しましたので、紙面にて発表いたします。

新型コロナウイルスと差別

玉川中学校 3年 大谷 慈

今、世界中で感染者が増加している新型コロナウイルスについての情報や話題をどこに行っても耳にするとおもいます。このウイルスに感染することも怖いですが、感染したことで向けられる周りの人達からの目やうわさ、偏見の方がもっと怖いとおもいます。どのような差別やいじめが起きているのか、また私たちはこの差別をなくすために何ができるのでしょうか。

まず、どのような差別が起きているのかというと感染した人を「コロナ」と呼んだり、医療従事者の入店拒否をしたりとてもひどいことが起きています。私が実際に見たのは、感染した有名人の SNS のコメント欄で「どうせ遊んでばかりいたんだろう」や「死ね」など誹謗中傷をしているコメントです。だれだってかかっていた訳ではないのにその人を責めたり、傷つくようなことを言うのは立派な人権侵害だとおもいます。

特に、人々を助けるために必死に戦ってくれている医療従事者の方々に差別がおきていることはとても悲しいことです。道を歩いているだけで避けられてしまったり、親が医療従事者の子どもが学校でいじめられたり、保育の受け入れを拒否されることがあるようです。

また、自粛警察という言葉を知っていますか。これは外出の自粛や休業しない人達に攻撃をする人のことをいいます。この自粛警察の行動が過激になっているそうです。公園で遊んでいる子どもの家へ「子どもを外で遊ばせるな。」という内容の手紙を入れたり、連休中に仕事で他県から来た車を遊びに来たと勘違いし、ナンバーの写真を SNS 上にアップする。このような動きは全国各地で起き

ていて、不要不急の外出でなくても出かけにくくなってしまっています。最近では、他県のナンバーを見つけるために外に出る人もいて、人の事情を聞かず勝手に自粛していないと決めつけるのはおかしいという批判の声もでてきているそうです。

私は、なぜこのような差別や偏見が広がってしまったのか考えてみました。

一つは誰かのせいにしてしまう人が多いからだとおもいます。コロナウイルスで死んでしまった人へのコメントは、死を悲しむものや今までの感謝を伝えるものがたくさんありますが、中には最初に感染者が出た国や自国の対応への批判コメントもいくつか見られるからです。

もう一つは、なかなか終息しないことに恐怖や不安を抱いているからだとおもいます。どの情報が正しいのか分からない今、心が不安定で不確かな情報を信じてしまうことがたくさんあります。どこの誰がコロナにかかったという噂が流れたとき、確認もせず言いふらしたり、その人の家族に嫌がらせをしたりすることがないように、正しい情報を知ることが大切です。

私たちがこの差別をなくすためにできることは、コロナウイルスが流行していることを誰のせいにもせず、大変な状況の中でも働いている人たちに感謝することです。戦う相手はコロナウイルスなのに、人同士で傷つけあっていたら今の状況が悪化するだけです。誰もかかっていた訳ではありません。SNS で批判することはウイルスの終息にはつながりません。最前線で戦っている医療従事者の方々や、荷物を届けてくれるトラックの運転手さんなど私たちの生活を支えてくれる人に感謝し、お互い協力することが大切だとおもいます。



「親切はもう一度」

南笠東小学校 4年 山口 幹太

ぼくが買い物に行っている時、同じ買い物をしていたある女性がカートをひいて歩いていると、商品を落としてしまいました。ぼくは、とっさにひろおうと思いましたが、他の人に捨てられてしまいました。とても残念でした。そして買い物を続けてレジに行くと先ほどの女性がいました。ぼくはびっくりしました。その方は台からカゴをおろすのにてこずっていました。ぼくは「親切のチャンスだ。」と思ってカゴをおろすのを手伝いました。相手から「ありがとう」と言われてとてもうれしかったです。



ぼくは今思います。親切はしたらするほどいいと思います。したらするほどうれしくなります。親切は自分も相手もどんどんぽかぽかな気持ちになると思います。ぼくはもっと小さなことでも大きなことでもどこでも親切をしたいです。親切は何回してもあきません。



「友達のやさしさ」

南笠東小学校 4年 小泉 皓

ぼくは夏休みにお母さんのお手伝いをしてやけどをしました。

そして学校に行って友達にやけどをしたことを言うと、「だいじょうぶ。」や「やけどしたら痛いよな。」と言ってくれました。ぼくは、その時少しいたさがやわらぐように感じてとてもやさしいと思いました。

そのほかにも、ぼくが算数で分からないところがあったとき友達がぼくに教えてくれました。ていねいにとても分かりやすくぼくが分かるまでゆっくり教えてもらいました。ぼくはとてもうれしかったです。



もし友達がやけどのことを、「だいじょうぶ。」や「やけどしたら痛いよな。」と言ってくれなかったら少しも痛みはやわらがなかったし、もし算数の分からないところを、ていねいにぼくが分かるまで教えてくれなかったら、ぼくはずっと算数の問題が分からなかったと思います。

やっぱり友達は助け合う存在で、そんな友達を大切にしたいです。今よりもっと仲良くしていきたいです。

「人の人権を大切に」

南笠東小学校 4年 和泉 柊音

ぼくは、何度か人の人権をきずつけてしまったことがあります。



日頃から仲の良い友だちと、ちょっとしたいやなことがあり、ムカムカしたので、友だちにきつい口調で言っていました。言った後、少しはムカムカがおさまりました。でも、相手の友だちは泣きそうでした。それを見て、心の中がもやもやしてきました。周りの友だちが「あやまれよ」と声をかけてきてくれたので、あやまりました。心のもやもやがなくなりました。それからは、きつい口調で相手の友だちに自分の考えを言うのをやめました。なぜなら、きつい口調では、相手をきずつけてしまうからです。この4年生でも、引き続き、きつくない口調や、悪口になってしまわないように毎日気を付けています。これからも、友だちを大切に、人の人権を大切にする自分でいたいです。



「はんせい」

南笠東小学校 4年 岡田 湊太

ぼくは、これまで友だちに悪口をいってしまったことを思い返して、心がいたくなることがあります。ドッチボールで遊んでいた時、ついカットとなってしまうことがあり、友だちに悪口を言ってしまっていました。相手の友だちがぼくのきつい言葉で泣いてしまっていたのに、最初はぜんぜん気づかずにいました。時間がたってから、友だちがぼくの言葉で泣いていたこと知り、ぼくはとてもこわいしました。言わなければよかったと何回も思いました。一日、心がいたくなりました。友だちにとってもいやなことだったと思うけど、ぼくにとっても、いやな経験でした。だからぼくは、カットとなっても、相手に悪口を言わないように気を付けています。あの時、ぼくがつい悪口を言ってしまった友だちとは、今では仲良くできているので、とてもうれしいです。



人権標語・作文・ポスター優秀作品

一般の部

標語 ウイルスは本当に怖い 人の噂が一番怖い
分かち合う 生きる喜び 笑顔の社会
知ってる？放った言葉は 元に戻らないこと
その言葉 相手の立場で 聞いてみて
指1本で命奪う SNS
慎重に！ SNS は諸刃の剣
ありがとう このひと言が こち良い

やすらぎ学級 谷口 昌子
民生委員 竹下 敬二
どんぐり 宇野 佳子
どんぐり 奥村 敏夫
どんぐり 小林 絹子
狼川町 橋本 頌造
コスモス 河村 良一

玉川中学校

標語 気づこうよ あの子は本当に 笑ってる？
その言葉 鏡に向かって言ってみて？

作文 「心のプロペラ」
「新型コロナウイルスと差別」

ポスター 人それぞれの個性 一つ一つが輝く世界へ

西原 滯
白坂 真一朗
泉 鈴音
大谷 慈
松宮 琴美

南笠東小学校

標語 あいさつは みんなえがおで うれしいな
だいじょうぶ まわりをみれば なかまたち
つらいとき たすけてくれる おともだち
はなしした ともだちできた うれしいな
ありがとう みんながいてくれたから たのしいよ
あいさつは きもちいい朝ができるよね

作文 「親切はもう一度」
「友達のやさしさ」
「人の人権は大切に」
「はんせい」

ポスター 差別なくみんながしあわせにくらそう！！
笑顔の花をさかせよう
いじめをなくして えがおいっぱい
「いじり」という都合の良い言葉を使って「いじめ」ないで。
さかせよう 個性の花
たったひとことで 人は傷付き、救われる。

阿部 風佳
中村 琉歌
横井 優萌
木村 花蓮
徳田 心優
野原 優牙
山口 幹太
小泉 皓
和泉 柊音
岡田 湊太
森 あいりい
西村 怜奈
上園 菜々美
笠岡 音弥
中島 優梨愛
川北 晴美



松宮 琴美(中3)



上園 菜々美(小6)



中島 優梨愛(小6)



森 あいりい(小6)



西村 怜奈(小6)



川北 晴美(小6)



笠岡 音弥(小6)